

[掲載紙] 朝日新聞「上州経済風信」

[掲載日] 2012年3月15日

[テーマ] 自動車依存の高まり—複数の柱育てて強固に—

先月末、太田市の富士重工業群馬製作所では、軽自動車の生産を終える式典が行われた。今後は普通車に専念するためだという。

往年の名車スバル360が走っていた時代を知るだけに、一抹の郷愁を覚えるニュースだった。それとともに、県内自動車産業が進歩を続けていることへの頼もしさを感じた。



自動車を中心とする県内の輸送用機器の製造品出荷額等は、2兆5千億円に上る（2010年）。県内の製造業全体に占める構成比は33.3%で、押しも押されぬ主力産業となっている。

県内製造業の輸送用機器への集中は、近年になって目立ってきている。今から約10年前の00年の製造品出荷額等をみると、輸送用機器がトップであったことには変わりない。ただその額は2兆1千億円で、第2位である電気機器の2兆円との差はわずかだった。

二つの業種が、製造業の4分の1ずつを占めながら並び立っていたことになる。ところが10年になると、電気機器は大手メーカーの工場撤退などから7千億円で縮小。これに対して輸送用機器は拡大を続け、主力産業としての地位を高めていったのである。



こうした産業構造は、全国的にみても、あまり例がない。最大業種の構成比、第2位の業種との構成比の差のいずれでみても、一つの業種への集中度合いが群馬県以上に高い都道府県は、トヨタ自動車のおひざ元である愛知県しかない。

▼各県の製造業に占める構成比が高い業種

(上段:業種、下段:構成比・%)

	愛知県	群馬県	秋田県	神奈川県	三重県	広島県	福岡県
第1位	輸送用 50.6	輸送用 33.3	電子部品 31.7	輸送用 21.4	輸送用 25.8	輸送用 29.2	輸送用 26.3
第2位	鉄鋼 6.5	食料品 8.6	食料品 7.5	石油 13.9	電子部品 19.4	鉄鋼 17.1	鉄鋼 11.5

(資料) 経済産業省「工業統計調査」(2010年速報) から作成

似ている県を探しても、地元出身者の創業による電子部品メーカーを擁する秋田県があるくらいだ。

完成車メーカーが主力工場を置く神奈川県、三重県、広島県、福岡県をみると、産業構造はより分散的だ。輸送用機器が伸びる県では他に有力な製造業が育たないということではない。



輸送用機器は、これから先もその歩みを進めるだろう。それは県内経済の成長にとっても望ましい。得意分野を伸ばさない手はないからだ。

同時に、それに並ぶ産業を育てる視点は大切だ。複数の柱に支えられることで、将来の県内経済の基盤はより強固なものになるはずだ。

(日本銀行前橋支店長
竹澤 秀樹)